

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年5月11日～5月18日)

2020年5月20日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、テドロス WHO 事務局長と電話会談(5/12)

●ベラルーシ、米国から石油調達を開始(5/15)

●EBRD、ベラルーシの2020年GDP成長率、-5%と予測(5/13)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ヴィテプスク州を訪問、同州農業複合施設を視察(5/15)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ヴィテプスク州の農業においてポジティブな変化が見られる。適切に収穫の準備をしなさい。組織性が必要であり、止まってはならない。

・政府による支援や資金は、将来性のある案件や分野に拠出される。結果が出れば、資金もついてくる。

私は、期待できない企業に資金を出すことはできない。

・ヴィテプスク州の農業分野における知見は、ベラルーシ国内他の州に広げていく必要がある。ヴィテプスク州では、農業分野における赤字企業、利益の低い企業が肉・乳加工生産企業と合併した、統合組織が7つ作られた。

・統合企業となる肉・乳加工企業においては、原料だけでなく製品を生産するため、先進的な機材を備えるべきである。また、高品質を保つ必要があり、それによって国内だけでなく、国外でも需要が生まれる。

(5/15 大統領府公式ホームページ)

●ルマス首相と会談(5/14)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・我々は既に、第一四半期の経済活動について研究した。4月は、我々の輸出志向の経済における一定の事情により複雑な状況にあった。まずは、我々を警戒させる、直近4ヶ月の結果と傾向について知りたい。また国家の債務状況も気になっている。

・第三に、国際通貨基金の資金援助について。私は、政府にこの問題について取り組むよう指示した。また、この状況において当国の保健システム等に支援を行

う用意のある他の国際金融機関の取り組みについて関心がある。

・そして、ロシア産天然ガスの供給価格にも注意を向けたい。13日、ロシアが欧州へ約70ドル(65-68ドル)で販売しているという情報を得た。ベラルーシ向けのように127ドルではない。EAEUの枠組みにおけるテレビ会談においても言及し、今後議論される。

(5/14 大統領府公式ホームページ)

●ペトリシェンコ副首相、カルペンコ教育大臣と会談(5/14)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・経済において何ら問題はない。どんなウィルスであろうと子供たちの教育のための焦眉の問題を止めるわけではない。

・学年終了、入学試験、夏期休暇の3つのテーマについて、答えを出す必要がある。

・ベラルーシでは、まず9学年、11学年に試験があり、その後、大学において学年が終了し、入学試験がある。新型コロナの感染拡大に関連し、私や政府機関によって行われた措置や、ベラルーシにおける状況を基に決断していく必要がある。

(5/14 大統領府公式ホームページ)

●テドロス WHO 事務局長と電話会談(5/12)

同電話会談は、テドロスWHO事務局長のイニシアチブによって行われた。テドロスWHO事務局長は、ルカシェンコ大統領にベラルーシにおける状況の説明を要請し、必要に応じ支援を行う準備があると公表し、どんな支援が必要であるか関心を示した。ルカシェンコ大統領は、保健システムや新型コロナウィルス拡

大に対する戦略や戦術について説明した。また、今日、治療に格別の注意を要する肺炎が懸念を引き起こしている、と強調した。重要な課題は、「死亡率の急上昇を防ぎ、人命のために闘うことである」と述べた。テドロスWHO事務局長は、各国はパンデミックに対し各国それぞれの方法を用いており、ここに統一の処方や規則は存在しない、と指摘した上で、ルカシェンコ大統領やベラルーシ政府機関へその取り組みに対し謝意を表明した。4月に実施されたWHOによるベラルーシ視察ミッションについて言及された。ルカシェンコ大統領は、テドロスWHO事務局長に専門家の訪問に対し謝意を表明した。テドロスWHO事務局長は、今後もベラルーシを支援していく意向を表明した上で、専門家の受け入れと、専門家による作業のための環境作りに感謝した。ルカシェンコ大統領は、テドロスWHO事務局長にベラルーシへ招待した。テドロスWHO事務局長は、パンデミック終了後にベラルーシに訪問すると約束した上で、招待を受領した。

(5/12 大統領府公式ホームページ)

【外交】

●マケイ外務大臣、中欧イニシアティブ緊急テレビ会議に参加。

新型コロナウイルス感染拡大による社会経済上の課題克服について協議された。マケイ外務大臣は、ベラルーシにおける新型コロナウイルス感染拡大対策を説明し、社会経済課題克服における国際レベルでの協力の必要性や、ベラルーシの中欧イニシアティブ、WHO、EU、EBRD、その他パートナーとの協力への用意を強調した。またマケイは、中欧イニシアティブ加盟国に対し、経済回復のための共同戦略の立案を呼びかけた。

(5/15 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ラブロフ露外務大臣と電話会談。

本会談は、ロシア側のイニシアチブで行われた。両者は、両国外務省間の行事について確認した。

(5/14 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、メメディアロフ・アゼルバイジャン外務大臣と電話会談。

両者は、新型コロナウイルス感染拡大対策における国際協力、二国間の貿易経済協力の維持と発展の重要性を確認した。また、物流やエネルギー分野における共同案件の実現について言及した。

(5/13 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ギルモアEU人権特別代表と電話会談。

両者は、新型コロナウイルス感染拡大対策と人権の分野におけるベラルーシとEUの相互協力について協議した。マケイ外務大臣は、ベラルーシは人権問題に関し、EUと米国と共に相互尊重の精神に則って常に協議をしており、この実践を継続していく、と述べた。

(5/13 ベラパン通信)

●中国、ベラルーシへ人道支援物資を送付。

本人道支援は、北京、長春、新疆ウイグル自治区によって集められた。また、中国企業の積極的な支援も行われた。本人道物資には、人工呼吸器、検査キット、保護用品が含まれ、総重量10トンを超える。3月から5月にかけて、中国からベラルーシに送付された医療用品の総量は90トンを超える。

(5/13 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、テレビ会合の形式によるCIS外相会合に参加。

同会合において、「2019年及び2020年のCISの枠組みにおける種々のレベルの外務省間協議計画」、「2021年～2030年の体育・スポーツ分野のCIS加盟国間協力の発展戦略」、「2022年における国家間計画『文化的首都－CIS』の実現」等、複数の文書が署名された。また、次回のCIS外相会合は、10月1日にウズベキスタン・タシュケントで行われると合意した。

(5/12 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、シャレンベルク・オーストリア外務大臣と電話会談。

両者は2019年11月に行われたルカシェンコ大統領によるオーストリア訪問における合意の実現について協議し、新型コロナウイルス感染拡大対策における協力の必要性を強調した。

(5/11 ベラパン通信)

経済

●信用格付企業フィッチ・レーティング社、2020 年ベラルーシ経済 GDP 成長率を-5%と予測。

(5/16 ベラパン通信)

●ベラルーシ、米国から石油調達を開始。

ベラルーシ石油化学コンツェルン・ベルネフチェヒム社アレクサンドル・ティシェンコ報道局長は、「6 月初旬に米国産石油を積んだ最初のタンカーがベラルーシへ供給のためリトアニア・クライペダ港に到着する。タンカーは 14 日に米国ボーモント港で積荷を開始し、17 日に出港を予定し、クライペダ港への到着は 6 月初旬となる。石油の種類はバッケン(当館注:米国の頁岩層)であり、量は 8 万トンである。」と述べた。

これに先立ち、ポンペオ米国国務長官が米国産石油の供給開始について公表した。ポンペオ国務長官は「今週、ベラルーシに最初の米国産原油が送られる。米国のエネルギートレーダー United Energy Trading 社による、米国企業 Getka 社やそのポーランドのパートナー UNIMOT 社との協力の下での、この競争力のある取引は、ベラルーシの主権と独立を強化し、米国がベラルーシ市場進出に関心のある米国企業に対し貿易機会を提供する用意があることを示し、2 月にミンスクにおいて政府首脳と共に引き受けたベラルーシに対する米国の義務を果たすものである。」と述べた。

5 月 15 日、マケイ・ベラルーシ外務大臣は、米国産石油調達の開始を公式に確認した。マケイ外務大臣は、「米国からベラルーシへの石油供給の開始を喜んで確認する。これは、2020 年 2 月 1 日のポンペオ米国国務長官のベラルーシ訪問、同氏とルカシェンコ

大統領との会談における合意の結果として可能となった。米国からの石油調達は、石油供給源の多角化、2020 年以降のベラルーシ製油所の安定的な稼働の保障に向けた国家戦略である。」と述べた。

(5/15 ベラパン通信)

●ベラルーシ、露石油大手ロスネフチ社と 2020 年末までの石油調達契約を締結

5 月 15 日、露石油大手ロスネフチ社は、ベラルーシ共和国との協力発展の枠組みにおいて、ベラルーシ・ナフタン社、ベラルーシ石油会社 (Belorusskaya Neftyanaya Kompaniya)、モズィール製油所と 2020 年 4 月から 2020 年 12 月まで総計 9 百万トンの石油供給の契約を締結したと公表した。

5 月 7 日、クルトイ・ベラルーシ第一副首相は、「露・ベラルーシ財務省間の石油価格の合意は、ほぼ準備ができている。」と述べた。

露石油大手は価格の合意に到達していないことを理由に 2020 年 1 月からベラルーシへの供給を停止していた。ロシアは、プレミアム無しでの石油供給を拒否していた。ベラルーシ政府は、ロシア国内における税操作によって石油価格が高くなっていることから、プレミアムの撤廃を主張してきた。結果、両者は、ロシア企業がベラルーシにプレミアム無しで石油供給をし、ロシア政府がプレミアムの一部を予算の振替によって補填すると合意した。

(5/15 ベラパン通信)

●2020 年 4 月ミンスク空港の乗客数、昨年同月比 93.7%減少。

(5/15 ベラパン通信)

●ルマス首相、露ガス大手ガスプロム社と天然ガス供給価格の新たな交渉を行うと発表。

ルマス首相は、「エネルギー市場は、ロシアとベラルーシがガス価格で合意した 2019 年末と大きく変わっている。スポット価格 80ドル/千立方米である。5 月にガスプロム社と交渉が予定されており、セマシユコ駐ロシアベラルーシ大使がベラルーシを代表し参加す

る。私は、ベラルーシにとって公平な価格で合意できる可能性があると考える。我々の論拠をロシア側が聞き入れることを願う。」と述べた。

(5/14 ベラパン通信)

●経済省、暫定版 2020 年 1 月～4 月 GDP 成長率、2019 年同期対比－1.3%と公表。

(5/14 ベラパン通信)

●EBRD、ベラルーシの 2020 年 GDP 成長率、－5%と予測。

(5/13 ベラパン通信)

●2020 年 1 月～3 月の外国投資は 28 億ドルと、昨年同期対比 2 億ドル減少。

(5/13 ベラパン通信)

●ベラルーシ向けサウジアラビア産石油、リトアニア・クライペダ港に到着。

(5/12 ベラパン通信)

●ベラルーシ林業・パルプ産業コンツェルン・ベルレスブムプロム社、第一四半期の輸出額、昨年同期対比、5%増加。

(5/11 ベラパン通信)

●ベラルーシのインフレ率、年初より 3.3%上昇。

(5/11 ベラパン通信)

内政・軍事

●ユーリー・ジッセルTut.by通信創設者、病没。

(5/17 ベラパン通信)

●フレニン・ベラルーシ国防大臣と魏鳳和・中国国防大臣、電話会談。

両者は、新型コロナウイルス感染拡大に関連した状況と実施された措置について協議した。また共同軍事演習、軍事教育、上海協力機構の枠組みでの相互協力等の分野における二国間の軍事協力の更な

る発展について協議した。

(5/15 ベラパン通信)

●アレーシャ・アシプツォヴァ・ベラパン通信非常勤記者、無許可の活動への参加に伴い、10日間の拘留措置を受ける。

(5/12 ベラパン通信)

(了)